

徳島市における昭和南海地震調査の報告

日本建設コンサルタント・正会員 澤田俊明*

徳島市消防局 酒井清貴**、(有)環境とまちづくり・正会員 花岡史恵***

徳島大学大学院・フェロー 村上仁士****、徳島大学大学院・正会員 上月康則****

1. はじめに

将来の南海地震は、M8.4 クラスの巨大地震の発生が今後 30 年以内の地震発生確率が 40%、50 年以内の地震発生確率が 80%と予想されている。徳島市では、次の南海地震に備えるため、昭和 21 年に発生した昭和南海地震の体験者を対象として、アンケート調査、聞き取り調査を実施し、これらをもとに地震体験談冊子を作成した。ここでは、徳島市における、一連の昭和南海地震調査について報告する。

2. アンケート調査

(1) 調査概要

アンケート調査は、昭和南海地震を徳島市内にて、実際に体験した 65 歳以上の徳島市民を対象に行った。アンケート回収は、2,239 通であった。表 1、表 2 に調査概要を示す。

表 1 アンケート調査概要

区分	内容
対象	地震当時徳島市在住の 65 歳以上男女
配付方法	手順 町内会・自治会に直接配付、郵送配布 手順 町内会・自治会経由で対象者に配布
配付数	5410 枚
回収方法	郵送方式
回収数	2239 通
回収率	39%
発送時期	2002 年 5 月末～ 6 月
回収時期	2002 年 6 月～ 7 月

表 2 アンケート設問項目（印は記述回答）

番号	質問項目
問 1	回答者属性：
問 2	地震発生時の状況
問 3	地震の被害（人・建物の被害・火事・山くずれ）
問 4	地震の被害（津波）
問 5	地震時の避難
問 6	地震時に困ったこと、助かったこと
問 7	昭和南海地震の教訓について
問 8	今後の調査への協力について

(2) 調査結果（抜粋）

紙面の都合上、ここでは調査結果を抜粋して示す。

a. 回答者の年齢

図 1 より、アンケート回答者は、「65 歳～79 歳（当時の年齢 8 歳～22 歳）」の方が 83%であった。回答者の割合が一番多い年代は、「70～74 歳」の結果となった。地震体験当時の年齢は 13 歳～17 歳で、現在の中学 1 年生～高校 2 年生の年代にあたる。

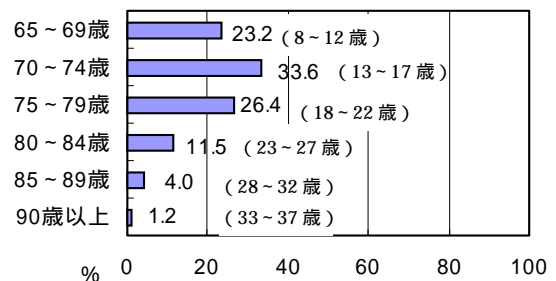


図 1 回答者の年齢（問 1-1）2239 人
（ ）内は当時の年齢を示す

b. 住まい

図 2 より、アンケート回答者の当時の住まいは、「木造建て」が 97%であった。また、住まいの 98%が 1～2 階建てであった。ちなみに、徳島市では昭和 20 年夏の徳島大空襲により市街地の約 6 割が焦土と化しており、地震当時の徳島市内は、現在と比較して住宅等の密集度がかなり低かった。

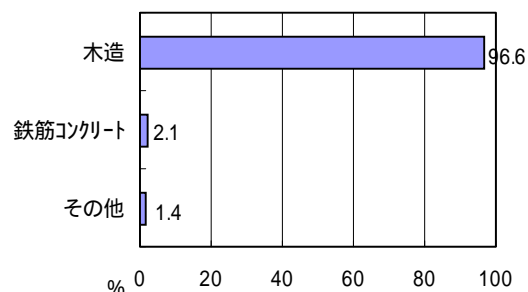


図 2 当時の住まい・種類（問 1-3）2239 人

【キーワード】南海地震、被災調査、アンケート、ヒアリング、体験談 【連絡先】* 770-0802 徳島市吉野本町 1-14、TEL088-655-3248、FAX088-655-4763、** 770-0855 徳島市新蔵町 1-88、TEL088-656-1199、FAX088-656-1202、*** 770-0041 徳島市蔵本元町 1-7-3、TEL088-631-7374、FAX088-631-7374、**** 770-8506 徳島市南常三島町 2-1、TEL088-656-7334、FAX088-656-7334

c. 地震の被害

これまで報告されてきた昭和南海地震による徳島市の被害一覧を表3に示す。このうち、現在の徳島市域における建物被害は、「全壊 29 戸」「半壊 22 戸」となっている。また、今回のアンケートによる地震被害のうち、建物被害の調査結果を図3に示す。図3より、アンケート結果では、建物の被害状況は、「全壊した建物の被害報告者数」が 194 名、「半壊した建物の被害報告者数」が 155 名となっている。

表3の被害一覧のオリジナル情報が、昭和南海地震発生翌日～3日後の地方新聞（S21.12.22付,S21.12.24付徳島新聞）の記載情報であることを考慮すれば、今回のアンケート調査により、これまでの地震被災記録より実際の地震被害が大きかったことが示唆される。他の人的被害、火災被害などについても同様な傾向が見受けられる。

表 3 昭和南海地震による被害

被害種別	徳島市	名東郡
死者(名)	2	1
負傷者(名)	5	
全壊(戸)	23	6
半壊(戸)	22	8
堤防欠壊(か所)	1	
船舶流失(隻)	3	
田畑冠水(町歩)	60	
木材流失(石)	500	

出典：村上・細井・島田：歴史地震第6号別刷「徳島の津波」、歴史地震研究会、平成2年

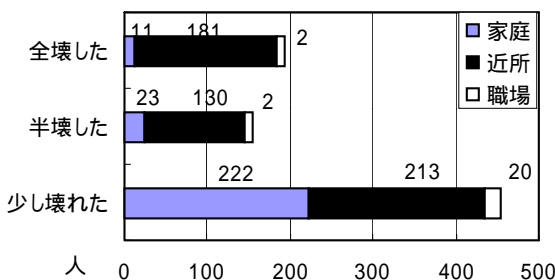


図3 建物の被害・状況 (問3-2) 2239人

d. 避難場所

アンケートの記述回答による地震当時の主な避難場所を表4に示す。表4より、避難場所の上位として「屋外」、「家の庭」、「空き地」、「近くの畑」、「広場」など、家の近くのオープンスペースに避難して

いたことがわかる。徳島市内で飛躍的に市街化が進展した今、57年前に存在した避難スペースの多くが存在していない、という現実を直視しておく必要がある。

表 4 当時の主な避難場所

1 屋外	2 家の裏	3 家の前庭	4 外庭	5 空き地
6 近所の家	7 近くの畑	8 県庁	9 広場	10 山(眉山)
11 城山	12 神社	13 竹藪	14 道路	15 畑
16 学校(運動場)	17 堤防			

3. 聞き取り調査

アンケート調査における回答者、老人クラブ等の昭和南海地震体験者の509名より、聞き取り調査を行った。調査は、2人一組で行い、筆記・テープ録音の上、文書にして整理した。

これらの聞き取り文書には、徳島市における地区レベルの地震被害情報が数多く含まれており、今後、聞き取り文書情報の、地区レベルでの地震被害の整理、被災マップづくりなどへの活用などが期待されている。

4. 体験談冊子の作成

509名の聞き取り調査の中から、120名分の聞き取り文書を抽出し、表5の構成で地震体験談冊子を作成した。この冊子は、今後、徳島市における地震防災における自主防災組織づくり、市民意識高揚、学校での防災教育などでの活用が期待されている。

表 5 地震体験談冊子の目次構成

【本文】・はじめに	・第1章昭和南海地震とは	・第2章アンケート調査のまとめ概要	・第3章昭和南海地震体験談
【参考資料】・昭和南海地震体験談住所別リスト	・昭和南海地震体験談調査概要	・市民アンケート結果	

5. おわりに

今回の徳島市における昭和南海地震調査の特徴として、徳島市で昭和南海地震の体験者により地震後57年を経て初めて行われた調査であること、調査結果にはこれまで把握できなかった新たな地震被害や被害場所の情報を多く含んでいること、地震被災世代が次の世代へ伝える巨大地震への教訓を多く含んでいること、などがあげられる。

今後、聞き取り調査データの分析、体験談冊子を活用しての自主防災組織づくりなど、地震防災にかかる取り組みを継続して進めて行く予定としている。